

## ■創刊 ちょっといい話 6話

### 再び結ばれた絆

お弁当の配達時には、お客さんから依頼があれば、ちょっとしたお手伝いもするようにしています。

その日Yさんは私に、携帯電話の購入の仕方について聞いてきました。家の電話を受けるのに、わざわざ立ち上がって電話機のところまで向かうのが億劫になってきたから、というのが購入したい理由です。

私は空き時間に携帯ショップに行き、事情を説明して店員の方に相談しました。店員さんがYさん宅まで訪問して、購入の手続きをしてくれるという説明を受けて、私はすぐにそのことをYさんにお話ししました。

高齢者の方なので、「契約時にどなたか立会い人がいた方が良い」という店員さんの言葉も伝えたとYさんは、  
「あんたは信用できるから、あんたが立ち会ってもらえないか？」  
と、私に言ってきました。  
これまで無口なYさんでしたが、私のことを信用してくれていたんだと少しうれしく思い、快くその話を受けました。

後日、お店を閉めた後に契約に立会い、Yさんは無事に携帯電話を購入しました。その際、Yさんは店員さんに、なにやらメールのことを熱心に教えてもらっていました。購入後も配達時には度々、メールのやり方を私に聞いてくるYさん…。

そんなやり取りがしばらく続いたある日、  
「久しぶりに東京にいる息子と連絡がとれた。ときどきメールもやってるよ。」  
と、いつもより軽やかな口調でお話してくれました。

そのとき、私はピンとききました。  
Yさんが携帯電話を購入したかった一番の理由…。  
実は、Yさんは息子さんとの連絡を取りたかったんです。  
いつも無口なYさんなので、そのことを素直に話すのが照れくさかったのでしょう。

数日後、お店の携帯電話に1本の電話が入りました。  
「いつもお世話になっています。Yです。Yの長男です。」  
東京に住む息子さんが、お弁当や携帯電話の購入のお手伝いのことで、  
わざわざお礼の電話をしてきてくれました。

少しお話を聞くと、喧嘩をしたわけではないけれど、意見が合わずに父親で  
あるYさんと、10年ほど疎遠になっていたということでした。  
「携帯電話を買ったきっかけで親父から連絡が来て、ときどきメールまで送って  
くるんですよ。」

携帯電話を買ったことで、再び結ばれた家族の絆。  
その大事な出来事の力になれたという事が、本当にうれしく思えました。

今年のお盆に、息子さんは10年ぶりに帰省されていました。  
5日間ほどの滞在で、本当に楽しい時間が過ごせたようで、お二人とも笑顔に  
溢れていました。

Yさんは今日もメールのことで私に質問してきました。  
きっと今ごろ、大切な人に連絡を取っているかもしれませんね。

